

光明

第3号 2023. 7. 1 発行

御家宝様のお守りとは

柴灯護摩の準備が本格的になった5月上旬にふと、初代の寺上衆宝師が祈祷寺として興された光明宝院なので、本格的に拝んで行こうと考えておりましたところ、護摩堂の御家宝大師様から、「拝むように」とのお告げが、聞こえてきました。

そこで、第二代の伊藤真順管長同様、7月1日～21日間の修行に入り、お守り作成することにいたしました。

何ぶん詳しい修行法を書いた記録も残っておらず、以前に助手をされた井本執事が覚えておられる前管さんの様子を頼りに、新たに修行法を組み立てることにいたしました。

般若心経を21日間で一万遍、1日十数時間唱え、最後の結願にお護摩を修し般若心経の写経もお供えし、皆様にお守りをお分け出来れば何よりかと思っております。

皆様が仏様の深い智慧によって日々乗り切れますよう、祈念しております。

管長 三村慈光

柴灯護摩とは

光明宝院においては建立以来、初の柴灯護摩法要を、駐車場の秘鍵大師前にて、僧侶五名で厳修させていただきました。

5月の穏やかな中ご参列いただき、また一つ活動が前進いたしました。

この勢いを皆様にもお受けいただき、良い変化や前進をして、貴重な人生の時間が良い発展となるように祈らせていただきました。

火には、明るさや物を燃やす性質があり、護摩の火によって煩惱を燃やし、その明るさによって物事がより理解でき、分かりやすくなる、祈願もかなう、それを堂外で盛大に祈るお護摩が柴燈護摩さいとうごまです。

有縁の皆様におかれましても、明るい炎を燃やしていただき、人生の糧としていただけますよう、ご祈念申し上げます。

蓬萊山山主 前管長 宮島基行